

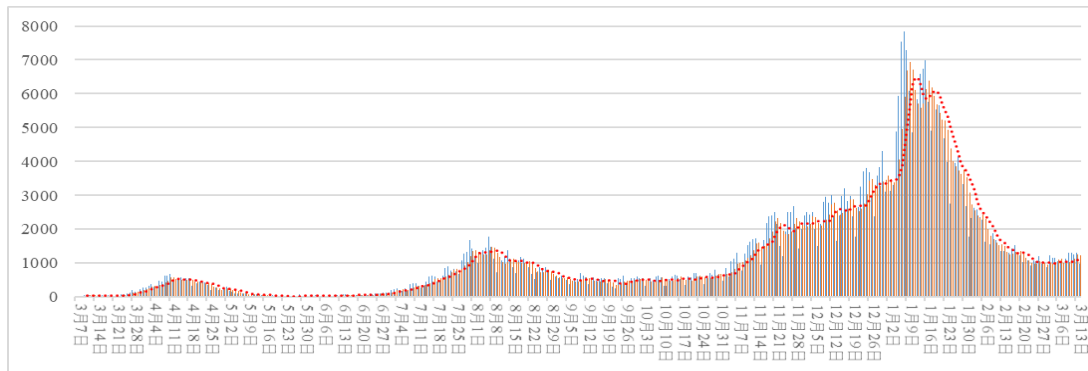
新型コロナウイルス感染症
流行シミュレーション作成事業
結果（2021年3月15日版）

群馬大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野

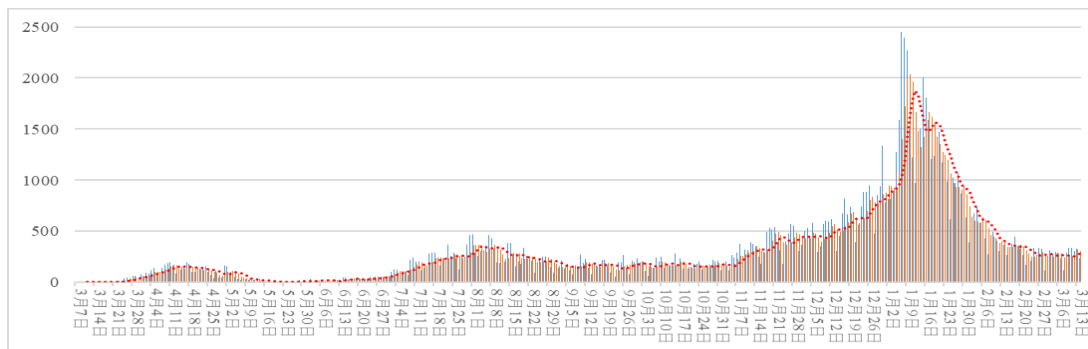
I 流行のリアルタイム評価

- 全国，東京都ともに，PCR陽性者等の報告数は年末年始以降は減少したが，一転し，2月の後半より横ばい～微増していた。

全国



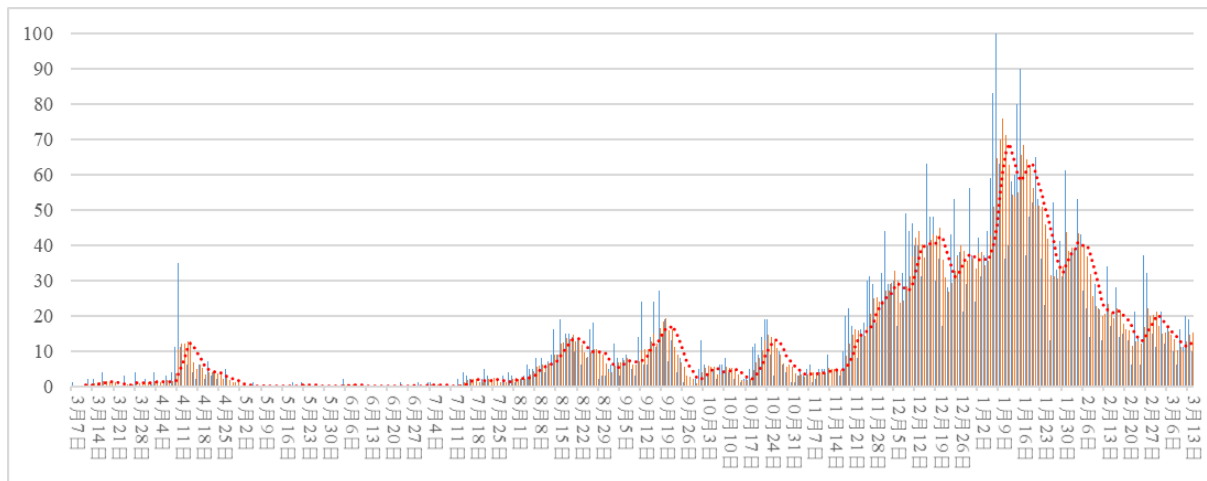
東京都



青：報告者数
橙：移動平均（5日）
破線：橙の近似曲線

I 流行のリアルタイム評価

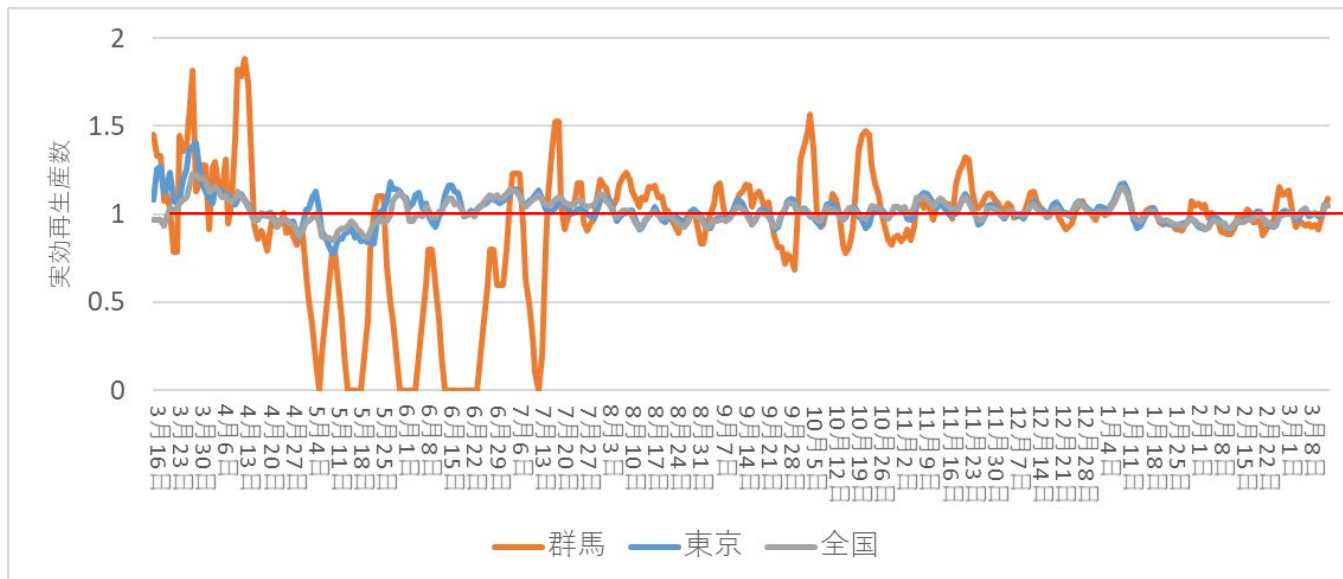
- 群馬県も全国と同様に，年末年始以降は減少を認めた。
- しかし全国や東京都と同じく，減少スピードが弱まり，横ばいの状態が続いている。



青：報告者数
橙：移動平均（5日）
破線：橙の近似曲線

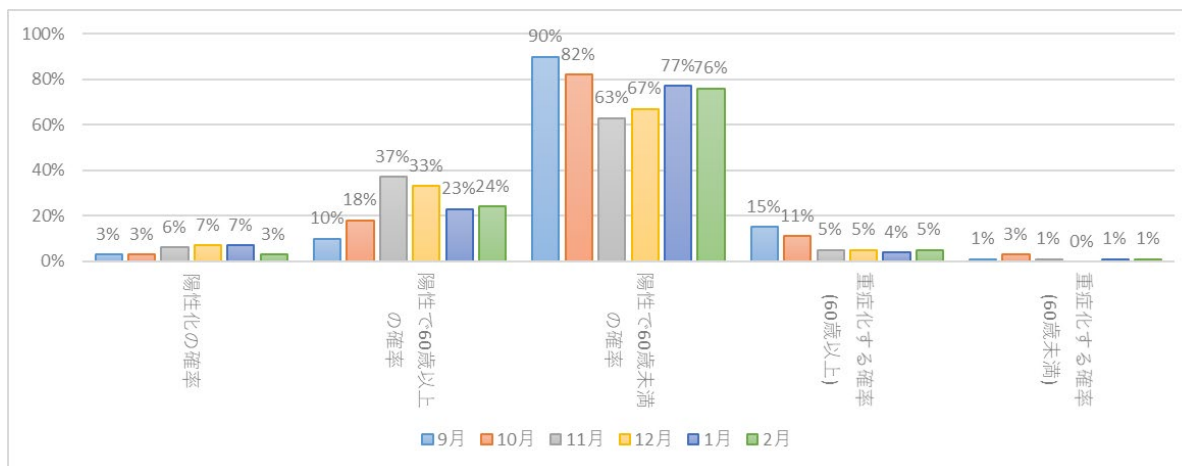
I 流行のリアルタイム評価

- 実効再生産数は再び1を超えた。最新値は、全国1.05, 東京都1.05, 群馬県1.09である。
- 不要不急の活動の自粛が要請されているにも関わらず、市中におけるヒトの動きは活発化しており、今後も感染の拡大が懸念される。



Ⅱ PCR陽性者等検査結果予測

- 月別のPCR検査(抗原検査含む)件数から陽性者が出る確率をベイズ推定した(過去6か月分)。
- 検査の陽性率は3%(95%確信区間3-4%)と低下。
- 陽性者のうち60歳以上の確率は24%(21-28%)と前回とほぼ同様であった。
- 陽性者が重症化する確率は60歳以上で5%(2-8%), 60歳未満で1%(0-2%), 前回とほぼ同様だった。



まとめ

- PCR陽性者等は，全国的に年末年始以降減少していたが，2月後半より微増に転じた。ヒトの気の緩み，行動の活発化，などの影響があると考えられる。
- 2月は，PCR検査が陽性化する確率は3%と減少した。感染者の年齢は，前回と同様，活動的な若年の世代が中心であった。
- 年度末に向けてヒトの動きがさらに活発になるので，再び感染が拡大する恐れがある。特に若い世代における会食の行動に対し，集団化しないこと，大声で会話しながらの飲食をおこなわないこと，などの注意喚起が必要である。